

# 6年生

## 月間報告

2016年11月

生徒氏名: E

責任者:

### 【責任者とは】

授業では複数の講師がローテーションしながら1人の生徒を指導しますが、月間報告は1人の講師が長期的に担当し、生徒の成長を見守っています。また、この報告書は講師全体で共有され、授業に還元しています。

### ①今月の最重要課題とその対策

設問になっている部分の表現を考慮して答える

### ②その他課題と今月の対策(「今月の対策」は具体的な内容が必要な場合のみ記入します)

現状の課題	今月の対策
(作文)簡単な表現ばかり使わずに適切な表現を考える	プラス・マイナスをはっきり表すことを意識する
(読解)答えるためのヒントとなる部分を押さえる	傍線部だけでなくその周辺をよく読む

### ③先月の教材ごとの取り組み数とその状況

教材名	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	状況
トップクラス	2	2	2	2						良いときと悪いときの差がある
科学なぜどうして(中級)	1	1	0	1						よく考えながら取り組んでいる

### 【取り組み数について】

上記の数字「2」は、解いた大問の数を表しています。2題に加えて『科学なぜどうして』による作文の時間も取れており、理想的なペースで進められています。

### ④責任者コメント欄

『トップクラス』という問題集を用いて読解問題に取り組んでいます。現状の一番の課題は「設問箇所の表現を考慮すること」です。少しずつそこに注意が向くようになってきていますが、まだ十分ではありません。現代社会は多くの情報であふれている、という内容の問題文で、「情報の消化不良」という比喩表現が何を表しているかを問われました。E君は「情報を吸収できないということ」と解答していたのですが、傍線部の「消化不良」に十分に対応していませんでした。ここではその言葉の本来の意味を踏まえ、なぜ消化不良が起こるのかという理由までを含めて「情報が多すぎて整理しきれないということ」とするべきでした。何となく本文に目を通してることが多く、設問箇所から考える道筋を立てることがまだできていないようです。

選択問題では、答えの数プラス1つを残して(選択肢が4つに対して答えが1つならば、先に2つを消します)、それらを吟味して誤りのものを削るという消去法で解くように指導しています。なお、その際におかしな部分に線を引き、答え合わせの時になぜそのように判断したのかを説明してもらいます。間違いである理由を明らかにすることで感覚に頼らず、本文をもとにして論理的に思考できるようになるからです。E君は2つまで絞る際にはしっかりと根拠を述べられるようになってきたのですが、最後の1つを消すときのそれが曖昧になっていました。考え方自体はしっかりと身につけているので、単に本文の一部を取り上げて違うところはないかと確認するだけでなく、両者の内容がどのように異なるのかということや、筆者の主張を踏まえて大きな視点で捉えることを意識して最終的な判断を下すことが大切です。

『科学なぜどうして』は科学的な事柄に関してまとめられた読み物で、ある現象の仕組みや生き物の生態を「因果関係」に着目して要約します。現在進めている「中級」は「初級」よりも情報量が増えますが、その中から大事な部分をしっかりと把握することができていました。

### ⑤保護者記入欄(要望、疑問などありましたら、どのような内容でも構いませんのでお書きください)

#### ■6年生の授業について

上記例では読解問題に取り組んでいる生徒のモデルを示していますが、原則として『きまぐれロボット』までを終えた段階で集中的に問題演習を行う機会を設けます。これは中学入試を控えている場合でも同様で、まず作文によって粘り強く考える力や「教材を正しく読むこと」、「正確に説明すること」、「いろいろな表現を出すこと」ができる力を培っていきます。それが読解問題における記述や、選択問題で根拠をもって答えを出すことに生きるからです。夏休み明け～10月頃までは問題演習と並行して作文も続けて、その質を維持していきます。

確認印